

令和4年度授業改善推進プラン

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	新出漢字の定着が非常に難しく、小テストや50問テスト等で何度やり直してもあまり向上が見られない。また、文章力に大きな課題があり、主述のねじれが随所に見られる。そもそも文章そのものに抵抗感のある児童が多く、思考がストップしてしまい固まりがちな児童も散見される。そして、それらのことは自分の言葉で自分の考えを発表することが苦手であることの一因にもなっている。	漢字の修得状況も2極化の傾向が顕著であり、学習しない児童群への取り組みが重要となる。可能な限りスモールステップの成功体験を積み重ねられるように工夫していく。また、文章力の向上も喫緊の課題であるが、まずはあらゆる教科で書く機会を増やし、書くことへの抵抗感を軽減していく。その上で、基本的な文章構造などについても繰り返し触れていくことで少しずつ向上を図っていく。これらことは、自分の言葉で考えを発表する能力の育成においても共通であり非常に有意義であると考え。	
社会	1学期開始当初は47都道府県を漢字で覚える(国語の学習課題にもなっている。)課題に挑戦した。再テストを繰り返したものの、結果としては勉強して徐々に覚える児童と何回やっても殆ど結果が変わらない児童の二極化する現象が見られた。我々の生活に密接な関係のある水道やガス、ゴミなどについて学ぶ4年生社会科の学習内容に強い関心をもったり意欲的に授業に取り組む姿勢は見られるものの、テスト全般の結果から分かる現状との間に大きな乖離が見られる。	左記のとおり、我々の実生活に即した学習の授業に臨む姿勢は意欲的であり、大切にしたい部分である。その上で、学んだことを整理してまとめたり、資料を元にして自分たちができることについて具体的に考えて自分の言葉で発表するような活動を重視したりすることでより応用のきく能力を育成していく。	
算数	・「わり算の筆算」では「たてる・かける・ひく・おろす」の手順が身に付いておらず、商を立ててその後の「かける」「ひく」の作業でかけ算、ひき算のミスが目立つ。 ・東京ベネッセクリニック診断シートの結果から、三位数×二位数のかけ算の正答率が3割程度と低い。積の足し算に繰り上がりのある筆算を苦手とする児童が半数以上いることが分かる。 ・四位数の整数のひき算を苦手とする児童が3割ほどいる。 ・学力調査の結果より、図形に関して課題があることが分かった。	・「たてる・かける・ひく・おろす」の手順を板書やカードを用いて視覚的に明示する。 ・習熟度別少人数指導やパワーアップタイム、ミラインードの活用により繰り返し練習を取り入れていき基礎力をつける。 ・繰り下がりのあるひき算の筆算を前々年度の二位数-二位数から補充し、桁数の多いひき算や、小数のひき算につなげる。 ・上記の基礎力向上に伴い、自分の考えを自身の言葉で表現する機会も多く設け、思考・判断・表現の資質の向上を図っていく。 ・各の大きな学習で、角の大きさを回転の大きさとして捉えさせたり、図形の考察に生かしたりする活動を行う。	
理科	学力調査結果の分析の結果、理科が得意ではない児童が約14%いた。電気のはたらきの回路の部分を書くことが苦手な児童も多かったため、個人として見ていく必要がある。実験や観察などに興味をもって意欲的に活動する児童もいるが、興味がない児童が、消極的になっている。また、授業で扱う事象について予想し、自分なりの根拠をもってそれを発表する活動が苦手である。	写真を見て、回路のしくみを自分で考えたり、考えたことを実物を使って確かめたりする時間を多く確保する。予想、実験、結果を自分の言葉で考えさせ、考えたことは班やグループで共有し、伝え合う時間を取ることで、思考・判断・表現の資質向上を図る。教科書の巻末にあるノートの書き方や記録カードのかき方、グラフの読み取り方などを学習する内容に合わせて、児童に紹介し、どの児童も書き方等が分かり意欲的に学べるように工夫する。	
音楽	・コロナ禍の2年間、歌えない時期・マスクを付けた状態で優しい声で歌うなど、発声や呼吸法を実践を通して学習できなかったため、歌唱の技能が身に付いていない児童が8割ほどいる。 ・コロナ禍の2年間リコーダーの学習活動に制限があったため、運指や音色、響きに気を付けて演奏する技能が不十分な児童が6割ほどいる。 ・音楽を形作っている要素などへの理解が不十分な児童が6割程度いる。 ・学力調査の結果から、話すこと聞くことについて課題が見られた。音楽の授業でも聴き取ったことや感じ取ったことを言葉で表すことが苦手な児童が多い。	・息をたくさん吸って歌うことや、口を大きく開いて発声することなどの基礎的な発声方法を重点的に指導し、家庭学習で実践するようにする。録画したものを振り返りながら指導する。 ・リコーダーカバーを活用することで授業中での練習時間を確保し、技能の取得を図る。 ・毎回、楽譜を見る時に音符、休符、記号や用語について振り返り、音楽活動を通して音楽を形作っている要素などを理解させる。 ・聴き取ったことや感じ取ったことを言葉で表す活動をより丁寧に行う。(音楽のもとを音楽に関連させて)	
図画工作	・絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたことや想像したこと、見たことから、表したいことを考えることが苦手な児童が3割程度いる。 ・材料や用具を適切に扱える児童がほとんどであるが、扱い方が不十分な児童が2割程度いる。 ・学力調査の結果から、話すこと聞くことについて課題が見られた。図工の授業でも、作品作りや鑑賞活動において、自分の考えを伝える力に課題が見られる。	・具体的な例を提示したり、ポートフォリオ式に思い付いたことを書き込めるワークシートを活用することで、自分の思いや表したいことを確認し、活動につなげられるようにしていく。 ・活動の始めに毎時間、扱う材料や用具について図や写真などを表しながら、安全な使い方を指導する。	
体育	体を動かすことが好きな児童が多くいて体育の授業は活発に取り組む児童が多い。不得意な動き、どうすればお互いに技能が向上するか、また、どのように関わっていったらチームのためになるのかを意識して運動に取り組むまでには至っていない。	運動の場や方法を選び、友達のよい動きを見付け楽しく運動ができるようにする。友達の良い動きで良かった部分を伝え、お互いポイントを意識して行えるようにする。自分の技能に合わせて、自らの課題をもたせ、様々な技能を身に付けさせる。友達と運動することの楽しさを味わわせられるように良い動きやできたときに進んで賞賛し自信を持たせる。	
道徳	各価値項目に導いていくための発問に対し、時に自らを登場人物の立場に置き換えて真剣に考えようとする姿勢が見られ、学年の長所であると認識している。このようなカラーが、校内の学年間でも穏やかに争い事が比較的に少ないと評される要因であると考えられ、道徳科が果たす役割は大きい。	左記の通り他者への攻撃性は低いと思われるが、その分、自己の明確な意見や意志をもつという部分で弱さを感じられる。道徳授業において同じ題材で同い年の友達がこのように自分と異なる感想をもち、意見を述べるんだなということにより多く体感させ、他者と違う自己の意見の大切さ、ひいては自己肯定感の高揚につなげていく。また、自分の考えを自分の言葉で発表する活動は、あらゆる教科に通底するものであり、意見を述べやすい道徳の特性を生かしていく。	
外国語活動	塾で外国語を習っている児童が率先して発表することで学級全体の学びになることが多い。リスニングは得意な児童が多いが、発音することを恥ずかしがり声が小さいことがあり、授業参加が消極的な児童もいる。ALTの先生の授業は楽しみにしている児童も多い。学力テストの結果から、思考・判断・表現に課題があった。	失敗を恐れずやり取りや発表する児童を評価して、進んで活動できる雰囲気をつくる。間違えても大丈夫なことを伝えと共に、言語を話せるようになるには発音することが大切であることを伝える。発音がいかにできるかのように、ALTの先生に一人一人話しかけてもらったり、ゲームを通して発音することを多く取り入れたりする。覚えたフレーズを使い、友達同士伝え合えるよう時間を取る。既習事項を総動員して、会話やスピーチができるような場面を増やす。	
総合的な学習の時間	身近な事象から、「なぜ」「どうして」という疑問を抽出して自ら解決しようとする意欲が少ないと感じられる。また、調べ学習を開始しても、どのようにまとめていくかわからないことが多い。そのため、さらに深く調べたいという意欲にも結び付きづらい現状がある。	小グループによる学習活動が総合においては初めてとなるので、その手法等について共通理解を図って進めていく。調べ方も、インターネットばかりに頼るのではなく、様々な方法があることを理解させたい。また、自らが考え、自分の言葉でまとめ、発表する過程を体験させて思考・判断・表現の資質向上を図っていく。	

※ 枠の大きさは適宜調整して、1枚に収まるように作成してください。